



汽水湖研究センター活動報告

1992年（平成4年）

4月10日 学内共同教育研究施設として汽水湖研究センター設置（センター長；徳岡隆夫）。

5月28日 センター設置記念式典及び祝賀会。

7月1日 専任教官（教授：高安克己）着任。

9月1日 専任教官（助教授：國井秀伸）着任。

9月4日 第1回講演会（於；島根大学理学部1号館）
沖野外輝夫・信州大学教授が『フィリピン・ラグナ湖の陸水学的現況と汽水湖研究の課題』と題して講演。その内容は本誌に掲載。参加者約120名。

9月8日 第2回講演会（於；島根大学図書館視聴覚室）

『インドにおける湖沼と地球環境の研究』をテーマに、ヒマラヤの地質国際シンポジウムで来学されていたインドの地球科学者2名が以下の演題で講演。参加者約50名。

C. シャルマ博士（Dr. Chhaya Sharma; Birbal Sahni Institute of Palaeobotany）；”クマオンヒマラヤの湖沼堆積物の花粉分析から見た完新世の地球環境”

D. P. アグラワル教授（Prof. D. P. Agrawal; Physical Research Laboratory）；”インドにおける湖沼研究とIGBP（地圏・生物圏国際研究プログラム）への課題”

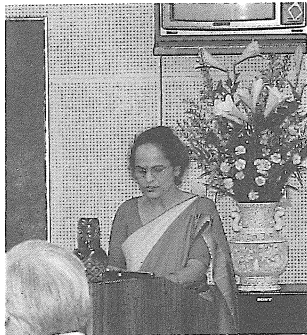


写真1. 講演するC. シャルマ博士（1992年9月8日）。

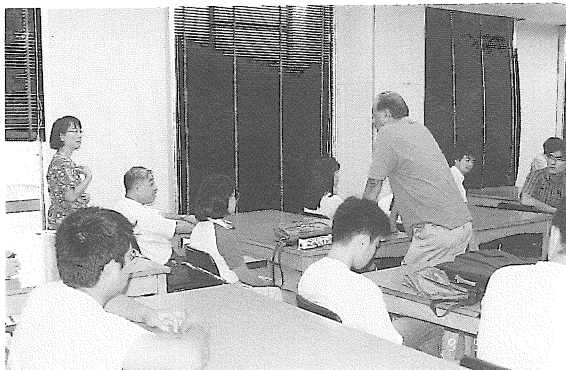


写真2. 参加者と討論するD. P. アグラワル教授（1992年9月8日）。

11月25～26日 環日本海（東海）シリーズ'92「高麗仏教文化と山陰」に参加（於；島根県民会館）

1993年（平成5年）

2月 NEWSLETTER 第1号発行，平成5年度客員研究員募集開始。

3月1日 専任教官（助手：竹廣文明）着任。

3月 公開シンポジウム報告集『中海・宍道湖とその流域—豊かな自然と文化を未来に生かす—』出版。

3月 センター建物改装工事（2階実験室整備など）完了。

3月 低バックグラウンド液体シンチレーションシステム及び電子プローブマイクロアナライザを導入。

3月 『山陰地域研究』第9号発行（山陰地域研究総合センター）。

4月1日 山陰地域研究総合センターの廃止に伴い，1階の「資料展示室」を「山陰地域資料室」と改称。

4月3日 日本生態学会公開シンポジウム『汽水湖研



写真3. センター改装記念祝賀会でのスナップ（1993年6月10日）。



写真4. センターの設備を見学する祝賀会参加者。

究の現状と将来展望』（後援。於；島根大学）。

4月 NEWSLETTER 第2号発行

6月10日 センター改装工事完成記念祝賀会

7月23日 第1回汽水域研究懇談会

島根大学農学部・森 忠洋教授が『農業漁業を大切に
した地域と地球の環境保全』について話題提供。

参加者14名（内学外者3名）

9月4日～10月2日（毎週土曜日）公開講座『朝酌
川一郷土史に学ぶ』を実施。徳岡隆夫センター長
による「朝酌川のおいたちと地球環境の未来」、國
井秀伸助教授による「水辺の景観と川づくり」など、
5名のセンター教官・研究員・客員研究員が講演し
たほか、日曜日を利用して現地見学会も行われた。
45名が受講。（NEWSLETTER 第3号に記事）



写真5. 第1回懇談会で話題提供をする森 忠洋・農学部
教授（1993年7月23日）。

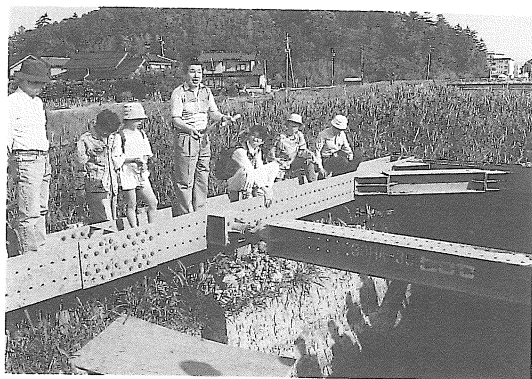


写真6. 公開講座『朝酌川一郷土史に学ぶ』での現地見
学会（1993年10月3日）

9月24日 第2回汽水域研究懇談会

建設省出雲工事事務所・松本直也所長が『川づく
りのむかしと今、そして未来』について話題提供。

参加者24名（内学外者4名）

10月 センターのパンフレット完成

10月12～13日 環日本海（東海）シリーズ'93『北
東アジアの食文化』に参加（於；島根県民会館）



写真7. 第2回懇談会で話題提供する松本直也・建設省出
雲工事事務所所長（1993年9月24日）。

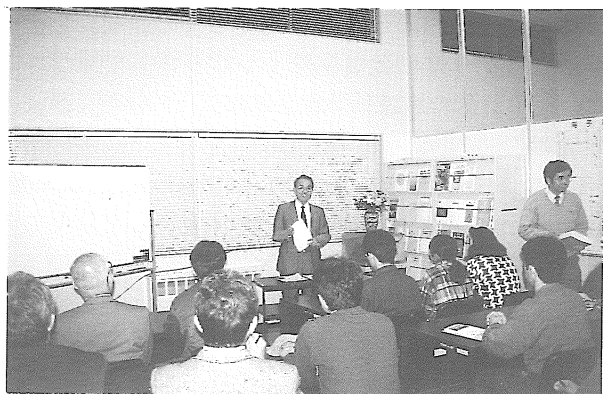


写真8. 第3回懇談会で話題提供をする糸魚川淳二・名古
屋大学名誉教授（1993年7月23日）。

10月29日 第3回汽水域研究懇談会

名古屋大学名誉教授・糸魚川淳二氏が『熱帯の汽
水域一マングローブの自然一』について話題提供。

参加者31名（内学外者8名）

11月4日 第4回汽水域研究懇談会

京大大学生態学研究センター大学院生・松原健司
氏が『安定同位体比を用いたハシビロガモの採餌特
性の解析』について話題提供。参加者23名（内学外

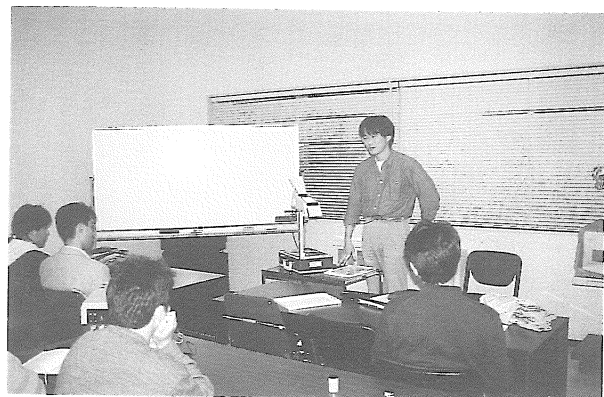


写真9. 第4回懇談会で話題提供をする京大生態学研究セ
ンター大学院生・松原健司氏（1993年11月4日）。

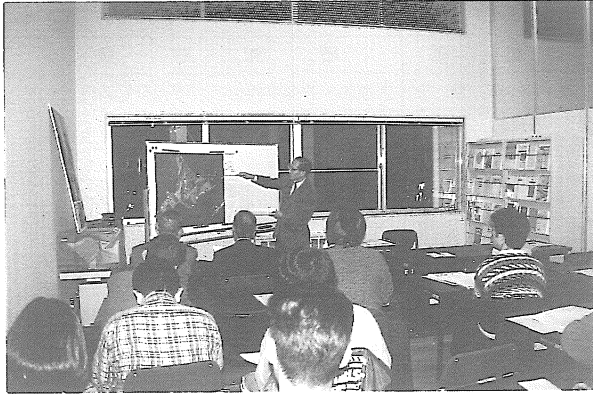


写真10. 第5回懇談会で話題提供をする大嶋和雄・茨城大学教授（1993年12月14日）。

者2名）。

12月14日 第5回汽水域研究懇談会

茨城大学教養部・大嶋和雄教授が『サロマ湖の自然環境と沿岸養殖』について話題提供。参加者19名（内学外者4名）。

1994年（平成6年）

1月12日 山陰地域研究・汽水域研究発表会

延べ60名の参加のもとで27題の研究が発表された。



写真11. 「山陰地域研究・汽水域研究」研究発表会での発表風景（1994年1月12日）。

2月6日 第1回公開シンポジウム『水辺のエコロジーとテクノロジー—豊かな水辺環境の創造をめざして—』（於；島根産業交流会館。島根県および松江市が共催）。信州大学教授・桜井善雄氏の「水辺の景観とビオトープ」を基調講演に、工学、理学が

らの報告、さらに国、県、市の水辺環境づくりの紹介を交えて市民参加のパネルディスカッションを行った。参加者約200名（内一般市民65名参加）。

3月10日 第6回汽水域研究懇談会

通産省工業技術院地質調査所研究員・山室真澄氏が『食物連鎖を利用した水質浄化技術』について話題提供。参加者27名（内学外者6名）。

3月 大型機器導入のために研究室の一部改装

3月 NEWSLETTER 第3号発行

3月 軽元素ガス同位体比質量分析装置、人工衛星による汽水域環境監視システム、自動水質分析装置、硫黄分析装置を導入。

3月 『山陰地域研究』第10号発行。

3月 『LAGUNA（汽水域研究）』第1号発行。



写真12. 第1回公開シンポジウムでのパネルディスカッション（1994年2月6日）



写真13. 第6回懇談会で話題提供をする山室真澄・工業技術院地質調査所研究員（1994年3月10日）。

編集後記

LAGUNA（汽水域研究）の第1号をお届けします。汽水域研究センターが開設して満2年目にしてようやく刊行することができました。平成5年の秋に原稿募集を開始して約半年が過ぎ、投稿していただいた皆様には大変ご迷惑をおかけしたことを思います。新しい研究誌の刊行ということで、編集委員の気負いもあり、なかなか基本デザインなどが決まらなかったり、編集作業に慣れていなかったことに原因があります。第2号からはこのようなことが無いように注意したいと思いますので、よろしくご協力ください。

なお、第2号は1994年の秋までに発行する予定です。本誌は汽水域研究センターの研究紀要というだけでなく、汽水域に関する成果の公表や研究交流の場にしたいと考えております。広く汽水域に関心のある研究者の投稿をお待ちしております。